

## 6.8 調査の結果

## 6.8.1 生物の生育・生息基盤

## (1) 調査事項

調査事項は、表 6.8.1-1 に示すとおりである。

表 6.8.1-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物・生態系の賦存地の改変の程度</li> <li>新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度</li> </ul>
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存緑地の改変の程度</li> <li>緑化計画</li> </ul>
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画地内に生育する落葉広葉樹（ケヤキ、サクラ類、トチノキ等）のうち、樹木診断等により移植すると判断した高木約40本を選定し、適切な時期に外来種の常緑広葉樹（トウネズミモチ）の生育箇所に移植する計画としている。</li> <li>予選会場を多目的コロシウムに配置し、公園内の既存樹木への影響を低減する計画としている。</li> <li>フィールドには約20,000m<sup>2</sup>の張芝を行う計画としている。</li> <li>植栽した樹木は、定期的な灌水、除草、剪定等により適切に管理するとともに、生育状況については、フォローアップ調査で確認する。</li> </ul>

## (2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

## (3) 調査手法

調査手法は、表 6.8.1-2 に示すとおりである。

表 6.8.1-2 調査手法

調査事項	生物・生態系の賦存地の改変の程度 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度	
調査時点	工事の終了後とした。	
調査期間	予測した事項	工事終了後の春季～夏季とした。
	予測条件の状況	
	ミティゲーションの実施状況	工事終了後の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。
	予測条件の状況	
	ミティゲーションの実施状況	
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	

## (4) 調査結果

## 1) 調査結果の内容

## ア. 予測した事項

## ア) 生物・生態系の賦存地の改変の程度

計画地は、夢の島公園内の多目的コロシム周辺であり、自然地形等は存在していなかったが、常緑広葉樹、落葉広葉樹の植栽樹林群が存在していた。樹木等が植栽されている土壌表面には、落葉等により腐食層が成立していた。

事業の実施に伴い、計画地内における生物の生育・生息基盤である植栽樹林群は伐採により減少したが、一方で、計画地周辺の主な生物・生態系の賦存地であった園内計画地東側の常緑広葉樹（クスノキ）、園内計画地西側の常緑広葉樹（マテバシイ）の高木の樹林群は事業の実施による改変は受けていない。また、計画地内に生育していた落葉広葉樹のうち、樹木診断で移植に適していると判断された高木 38 本を、園内計画地南側の外来種のトウネズミモチ等を伐採して生じたスペースに移植したことにより、外来種の常緑広葉樹群を在来種の落葉広葉樹林群に変更した。さらに、フィールドに 11,536m<sup>2</sup> の張芝を行うことにより、連続した生物・生態系の賦存地の維持に努めた。

## イ) 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度

事業の実施に伴い、計画地内の落葉針葉樹、常緑広葉樹の植栽樹林群が伐採されるが、計画地内に生育していた落葉広葉樹のうち、樹木診断で移植に適していると判断された高木 38 本を、園内計画地南側の外来種のトウネズミモチ等を伐採して生じたスペースに移植し、工事前の状況と同様の生物の生育・生息基盤が創出された。

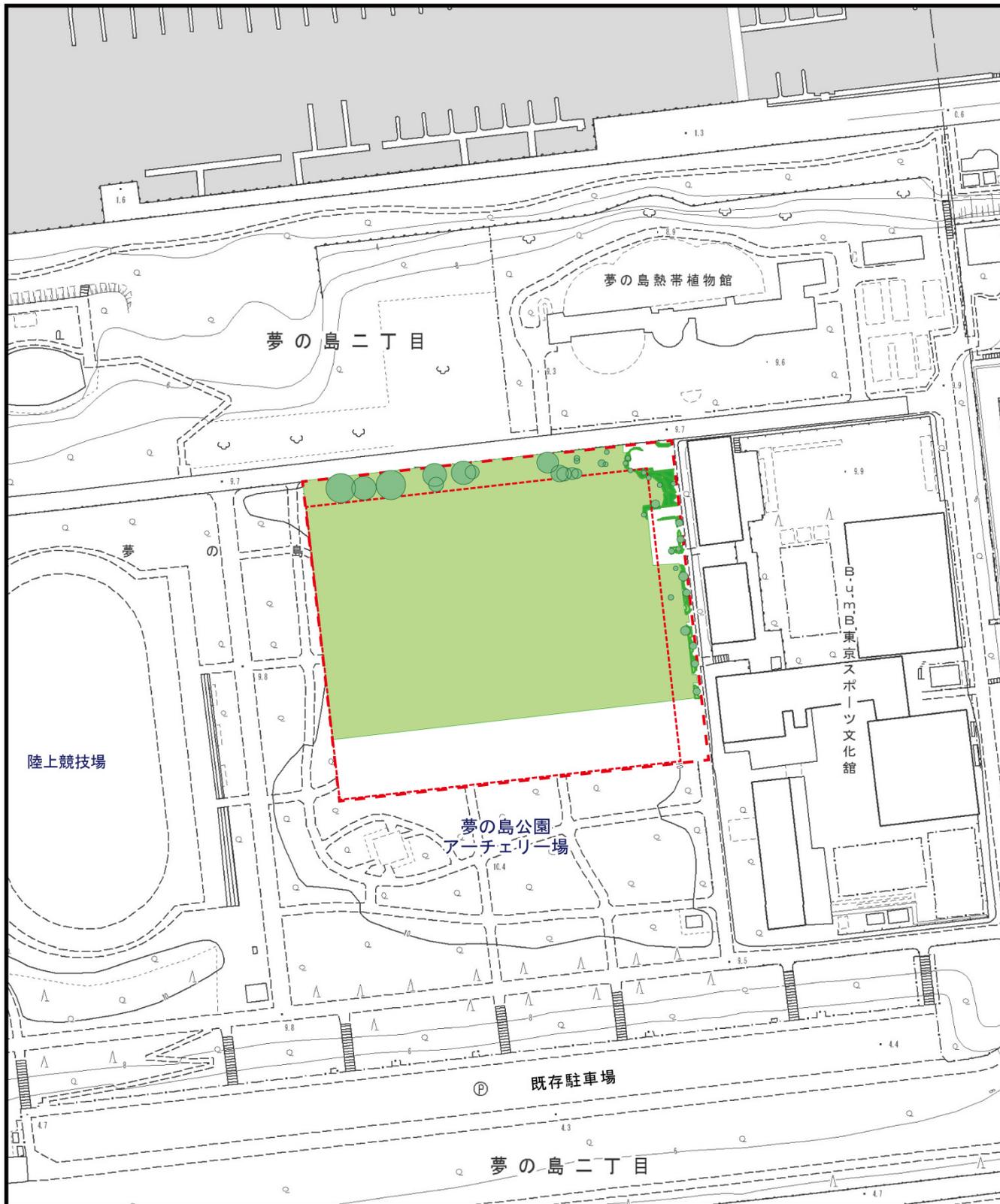
## イ. 予測条件の状況

## ア) 既存緑地の改変の程度

「1) 予測した事項」に示すとおり、園内計画地東側の常緑広葉樹（クスノキ）、園内計画地西側の常緑広葉樹（マテバシイ）の高木の樹林群が改変されていないことを確認した。また、園内計画地南側の外来種のトウネズミモチ等を伐採して生じたスペースに移植した高木 38 本について、順調に生育していることを確認した。

## イ) 緑化計画

緑化完了図については、図 6.8.1-1 に示すとおりである。



凡例

- 建築物等整備工事計画地
- 盛土工事計画地
- 樹木
- 芝張り等



Scale 1:2,500



注) 移植に適していると判断された樹木は、園内計画地南側の外来種のトウネズミモチ等を伐採して生じたスペースに移植した。

図 6.8.1-1 緑化図

## ウ. ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 6.8.1-3 に示すとおりである。生物の生育・生息基盤に関する苦情はなかった。

表 6.8.1-3 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>計画地内に生育する落葉広葉樹（ケヤキ、サクラ類、トチノキ等）のうち、樹木診断等により移植すると判断した高木約40本を選定し、適切な時期に外来種の常緑広葉樹（トウネズミモチ）の生育箇所に移植する計画としている。</li> </ul>	樹木診断により、移植に適していると判断された高木 38 本を移植した。（写真 6.8.1-1～写真 6.8.1-3）
<ul style="list-style-type: none"> <li>予選会場を多目的コロシウムに配置し、公園内の既存樹木への影響を低減する計画としている。</li> </ul>	計画どおり、予選会場を既存樹木の少ない多目的コロシウム内に配置した。
<ul style="list-style-type: none"> <li>フィールドには約20,000m<sup>2</sup>の張芝を行う計画としている。</li> </ul>	フィールドに 11,536m <sup>2</sup> の張芝を行った。（写真 6.8.1-4）
<ul style="list-style-type: none"> <li>植栽した樹木は、定期的な灌水、除草、剪定等により適切に管理するとともに、生育状況については、フォローアップ調査で確認する。</li> </ul>	植栽した樹木に定期的な灌水、除草、剪定、花がら摘み等の管理を行っている。植栽した樹木の枯死等の生育状況の不良は確認されていない。



写真 6.8.1-1 移植後のケヤキ



写真 6.8.1-2 移植後のサクラ類



写真 6.8.1-3 移植後のトチノキ



写真 6.8.1-4 フィールドの張芝

## 2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

## ア. 予測した事項

## ア) 生物・生態系の賦存地の改変の程度

事業の実施に伴い、計画地内における生物の生育・生息基盤である植栽樹林群は伐採により減少したが、一方で、園内計画地東側の常緑広葉樹（クスノキ）、園内計画地西側の常緑広葉樹（マテバシイ）の高木の樹林群は事業の実施による改変は受けていない。また、計画地内に生育していた落葉広葉樹のうち、樹木診断で移植に適していると判断された高木 38 本を、園内計画地南側の外来種のトウネズミモチ等を伐採して生じたスペースに移植したことにより、外来種の常緑広葉樹群を在来種の落葉広葉樹林群に変更した。さらに、フィールドに 11,536m<sup>2</sup>の張芝を行うことにより、連続した生物・生態系の賦存地の維持に努めた。

以上のことから、予測結果に対しフォローアップ調査結果は概ね一致していると考ええる。

## イ) 新たな生物の生育・生息基盤の創出の有無並びにその程度

事業の実施に伴い、計画地内の落葉針葉樹、常緑広葉樹の植栽樹林群が伐採されるが、計画地内に生育していた落葉広葉樹のうち、樹木診断で移植に適していると判断された高木 38 本を、園内計画地南側の外来種のトウネズミモチ等を伐採して生じたスペースに移植し、既存と同様の生物の生育・生息基盤が創出された。

以上のことから、予測結果に対しフォローアップ調査結果は概ね一致していると考ええる。